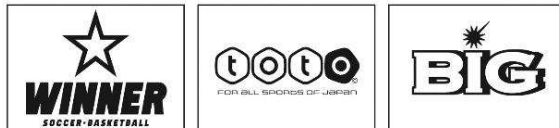


# スポーツくじ



スポーツ振興くじ助成事業

---

令和 5 年度

## テニス環境等実態調査 報告書

---

令和 6 年(2024 年)3 月

公益財団法人 日本テニス協会

# スポーツくじ



私たちはスポーツ振興くじ助成を受けています。

## 目 次

1. ご挨拶	2
2. 高校部活動におけるテニスの実施状況調査	3
3. 小学校におけるテニピンの体育授業導入状況調査	12
4. テニス界における選手・公認審判員・公認指導者数	22
4-1 登録選手	22
4-1-1 プロ登録選手	22
4-1-2 一般登録選手	22
4-1-3 ベテラン登録選手	23
4-1-4 大学生登録選手	23
4-1-5 ジュニア登録選手	24
4-1-6 高校生登録選手	24
4-1-7 中学生登録選手	25
4-2 公認審判員	25
4-3 公認指導員	26
4-3-1 コーチ1～4、テニス教師、テニス上級教師	26
4-3-2 S級コーチ	27

別紙 都道府県におけるTENNIS Play&Stayの取組状況

※別紙については今後掲載予定

# 1. ご挨拶

平成24年度以降、日本テニス協会はテニス基本データの収集とテニス環境の改善に資する調査を実施し、その結果を「テニス環境等実態調査報告書」として公表しています。

令和2年度から令和4年度は、コロナ禍による環境変化が、テニス事業者等に与える影響を継続的に調査・把握し、広くテニス関係者へ情報共有を続けてきました。

コロナ禍を経て、令和5年度はテニス界でもコロナ禍以前と同様に大会やイベントが開催されるだけでなく、各地で活発な動きが見受けられました。そうした中、本協会が推進する富士山プロジェクトによる選手数の増加や、普及推進事業によるテニス人口の裾野拡大は急務となっています。

令和5年度の調査では、近年ジュニア世代の選手数が減少し、中でも高校生世代は著しく減少傾向がみられることから、高等学校体育連盟テニス専門部のご協力のもと、現役の全国部活生を対象としたアンケート調査を実施しました。本調査が今後の選手数増加に繋がる一助になることを期待し、報告いたします。

また、普及推進事業としてテニス型授業「テニピン」の小学校への導入拡大を目指す中、今後の活動を進めていく指針として、全国の小学校を対象にテニピン授業の導入数も調査しました。

本報告書は過去の分を含め、本協会公式ホームページでご覧いただけますので、積極的にご活用いただけたら幸いです。

最後になりましたが、本調査の実施に当たり、スポーツ環境調査助成事業としてご支援いただいた独立行政法人日本スポーツ振興センター様、アンケート調査の準備にご協力いただいた全国高等学校体育連盟テニス専門部様、そしてアンケートにご回答いただいた全国の皆さまに厚く御礼を申し上げます。

令和6年3月

公益財団法人日本テニス協会  
会長 山西健一郎

## 2. 高校部活動におけるテニスの実施状況調査

### 調査実施概要

調査目的	高校部活動におけるテニスのポテンシャル調査、ここ数年で高校テニス部員数が10万人から7万人に落ち込んでいる原因、対策を探るため。
調査対象	全国の高校1～3年生のテニス部員
調査方法	高体連全国高等学校体育連盟テニス部に所属する2,786校の高等学校に郵送配布・メール配信、WEBアンケートによる回答
回答状況	4,180名回答
調査時期	2024年2月～3月
調査主体	公益財団法人 日本テニス協会
調査協力	高体連全国高等学校体育連盟テニス部
調査実施	株式会社インターナショナルスポーツマーケティング

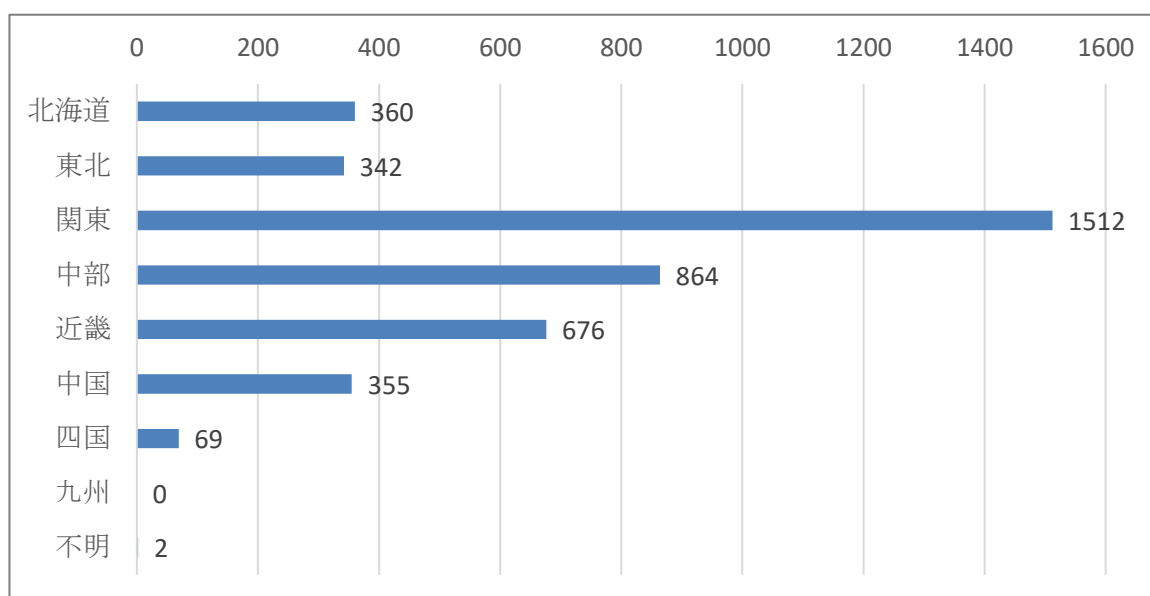
### 調査結果概要

#### 高校部活動におけるテニスの実施状況

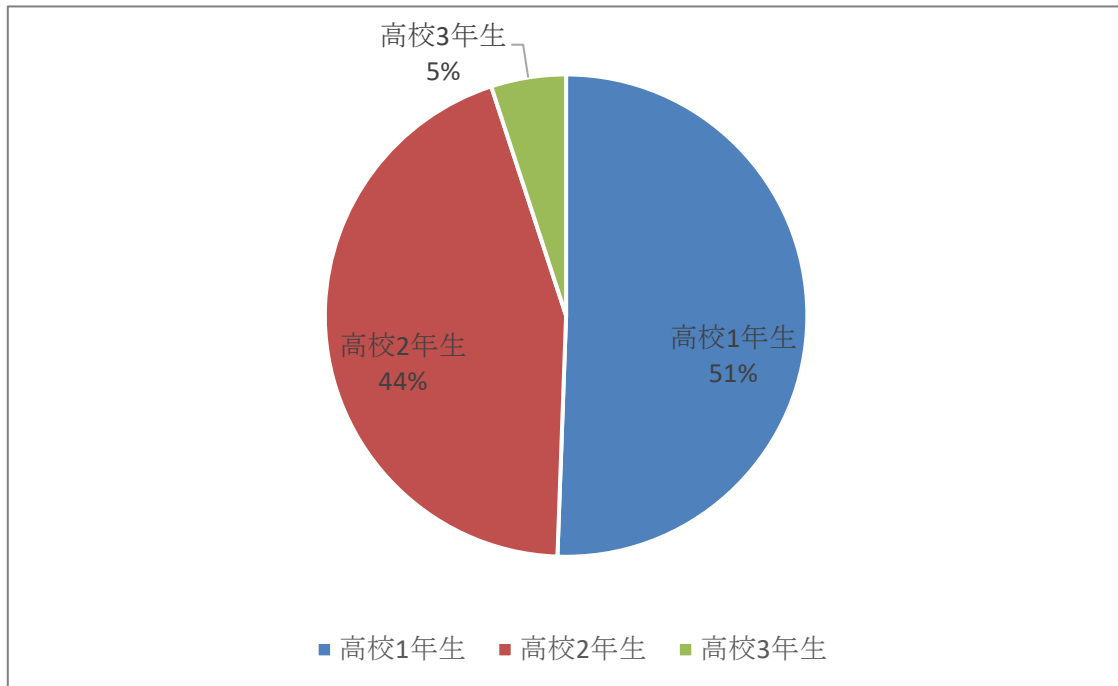
日本テニス協会では、2023年度、全国の高校1～3年生のテニス部員を対象に、高校部活動におけるテニスの実施状況調査を実施した。高体連全国高等学校体育連盟テニス部に所属する2,786校の高等学校に対して郵送やメールにて調査を依頼し、WEBアンケートによる回答方法で、4,180名から回答を得た。

下記では、回答のあった4,180名の属性(地域・学年・性別)をまとめている。

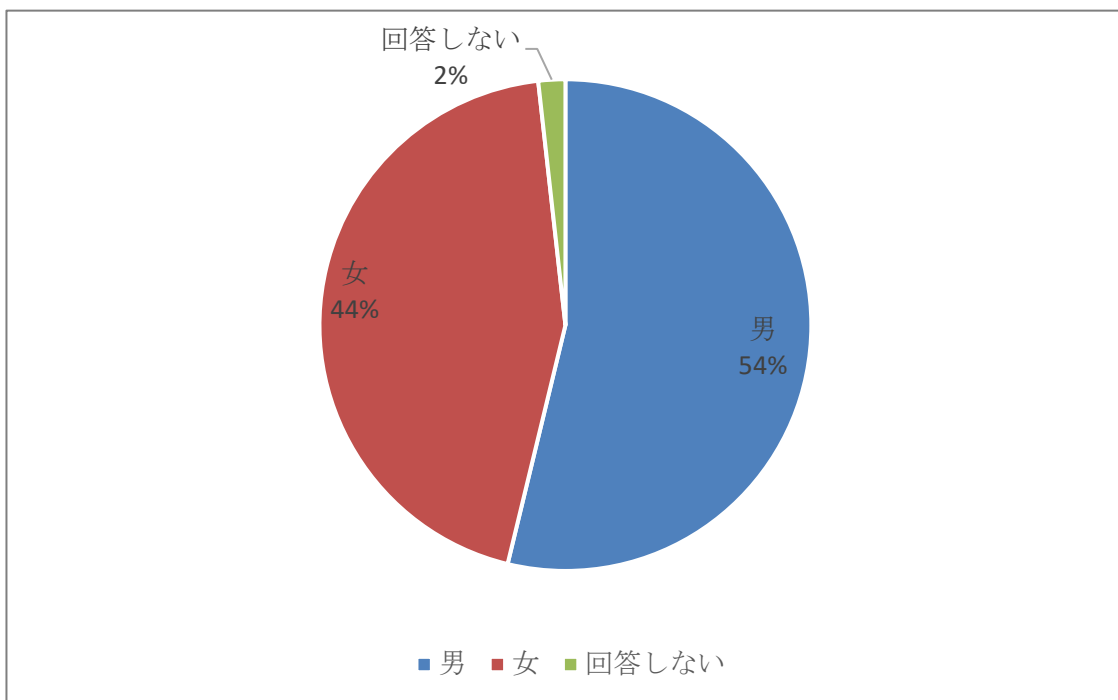
図表2-1：回答者の属性(地域) (n=4,180)



図表2-2：回答者の属性(学年) (n=4, 180)

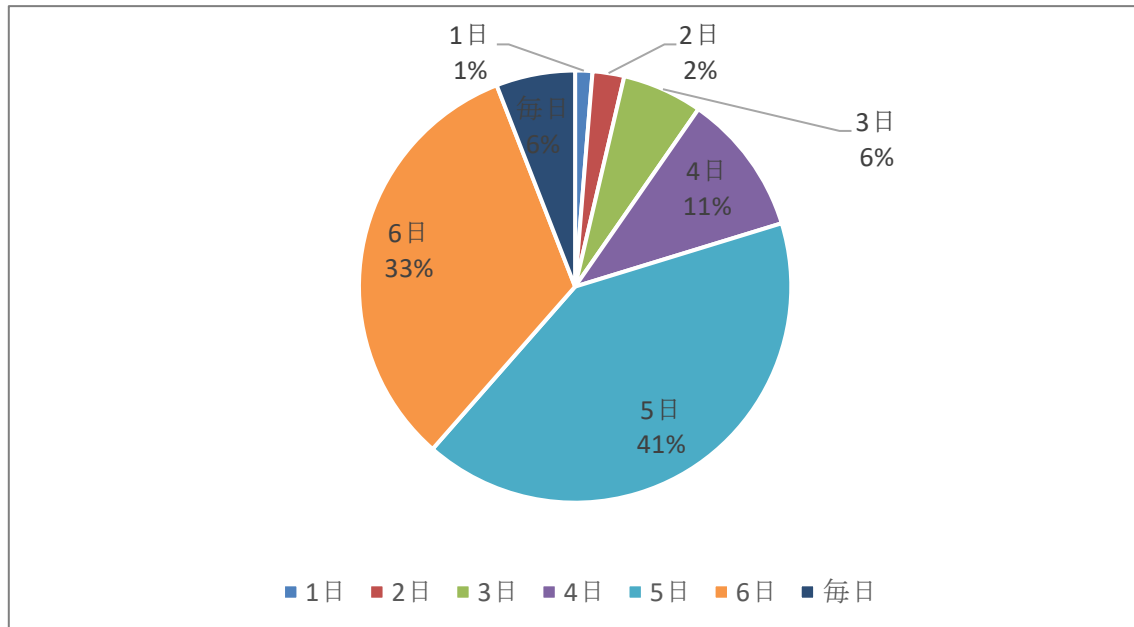


図表2-3：回答者の属性(性別) (n=4, 180)



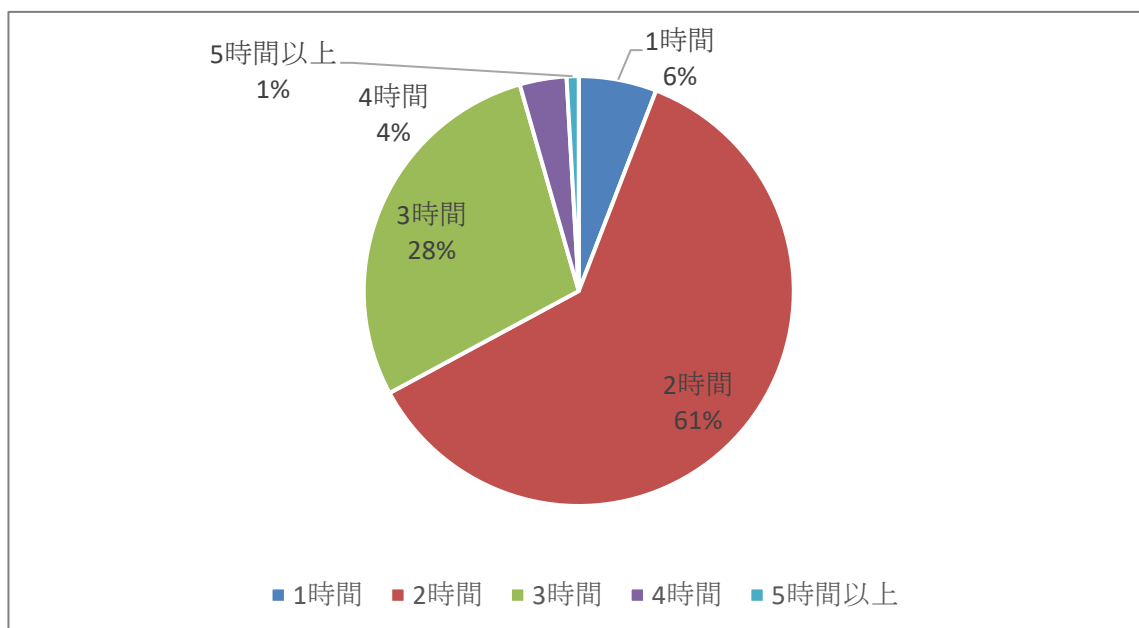
テニスの1週間の練習日数をたずねたところ、「週5日」が41%と最も多く、次いで「週6日」が33%、「週4日」が11%、「週3日」が11%となっている。

図表2-4：テニスの1週間の練習日数(n=4,180)



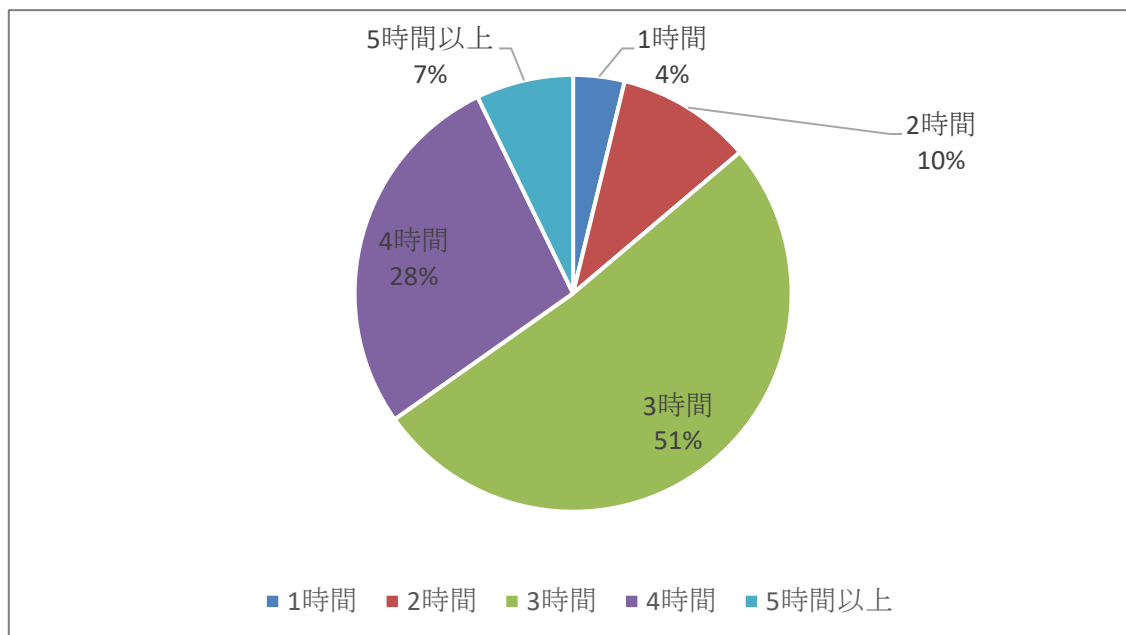
テニスの1日の平日の平均練習時間をたずねたところ、「2時間」が61%と最も多く、次いで「3時間」が28%、「1時間」が6%、「4時間」が4%となっている。

図表2-5：テニスの1日の平日の平均練習時間(n=4,180)



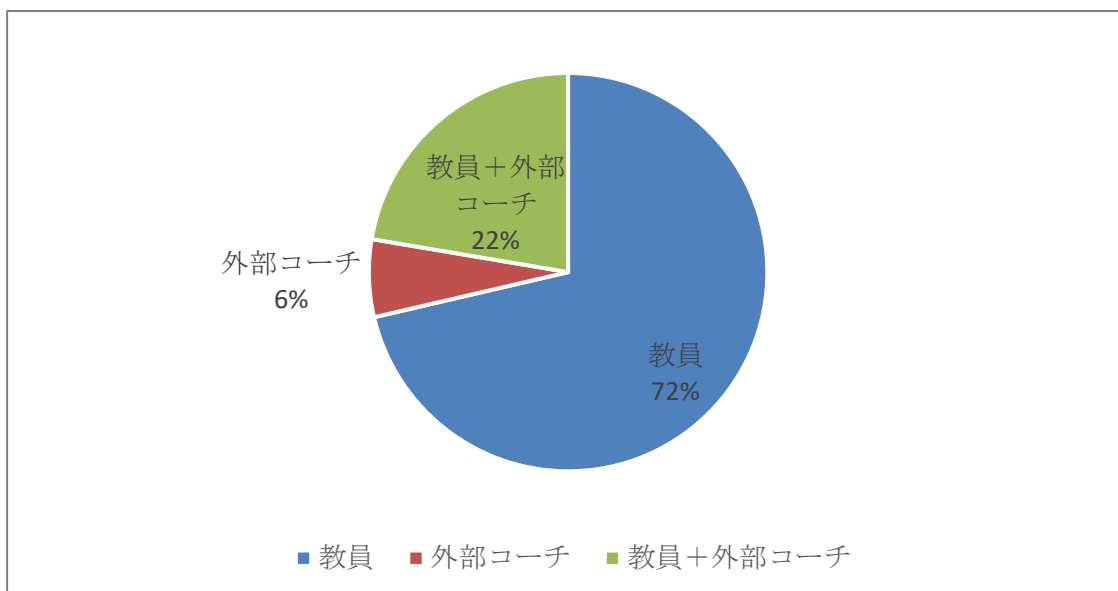
テニスの1日の土日祝日の平均練習時間をたずねたところ、「3時間」が51%と最も多く、次いで「4時間」が28%、「2時間」が10%、「5時間以上」が7%となっている。

図表2-6：テニスの1日の土日祝日の平均練習時間(n=4, 180)



テニス部活動の指導者は誰かたずねたところ、「教員」が72%と最も多く、次いで「教員+外部コーチ」が22%、「外部コーチ」が6%となっている。

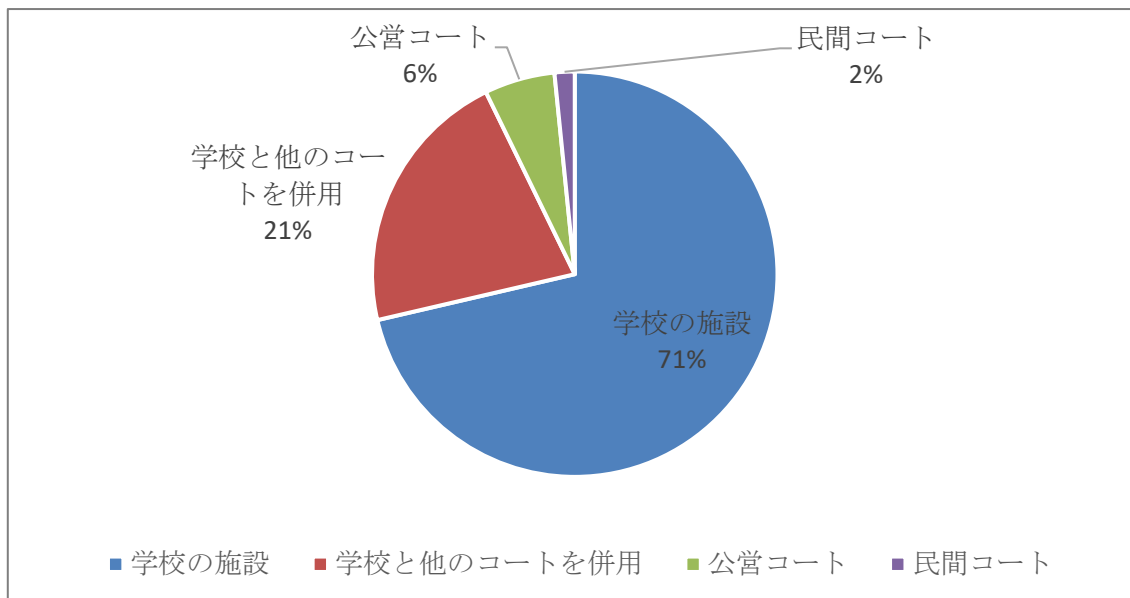
図表2-7：テニス部活動の指導者 (n=4, 180)





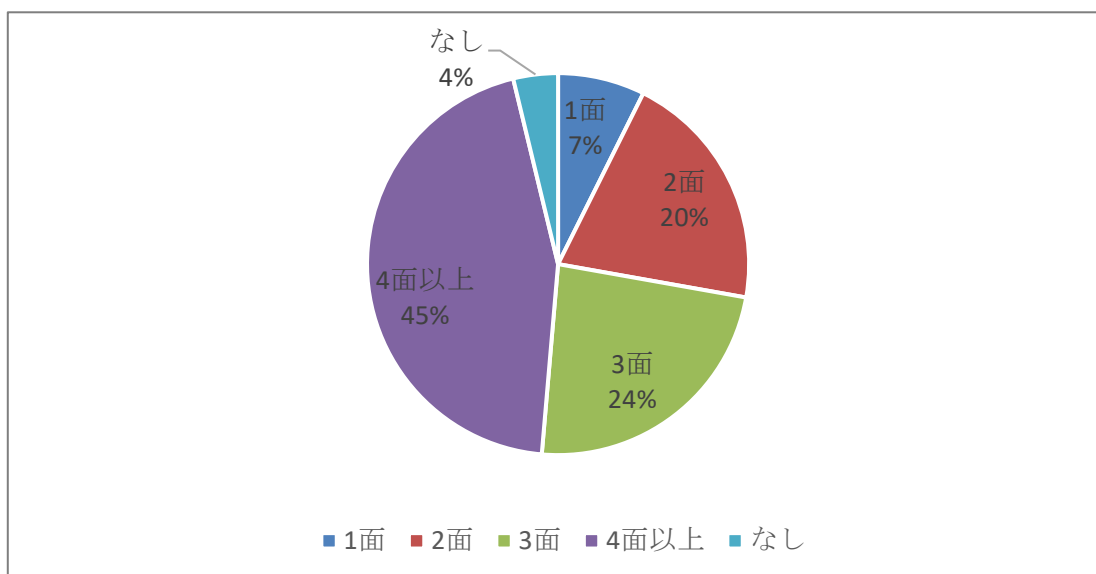
利用しているテニスコートをたずねたところ、「学校の施設」が71%と最も多く、次いで「学校と他のコートを利用」が21%、「公営コート」が6%となっている。

図表2-8：利用しているテニスコート (n=4, 180)



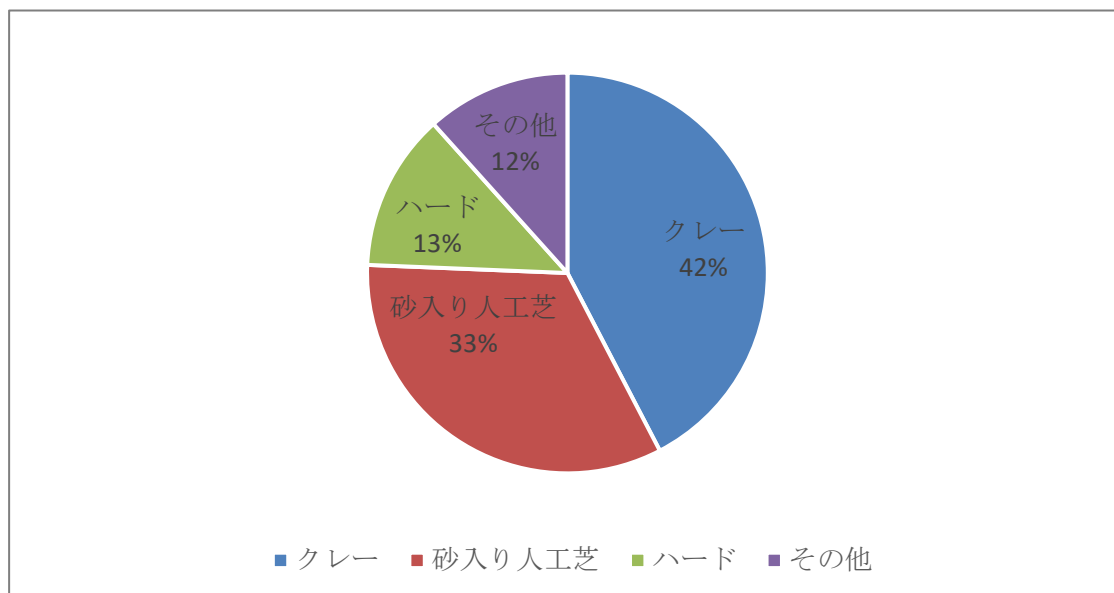
学校のコートの保持面数をたずねたところ、「4面以上」が45%と最も多く、次いで「3面」が24%、「2面」が20%、「1面」が7%となっている。

図表2-9：学校のコートの保持面数 (n=4, 180)



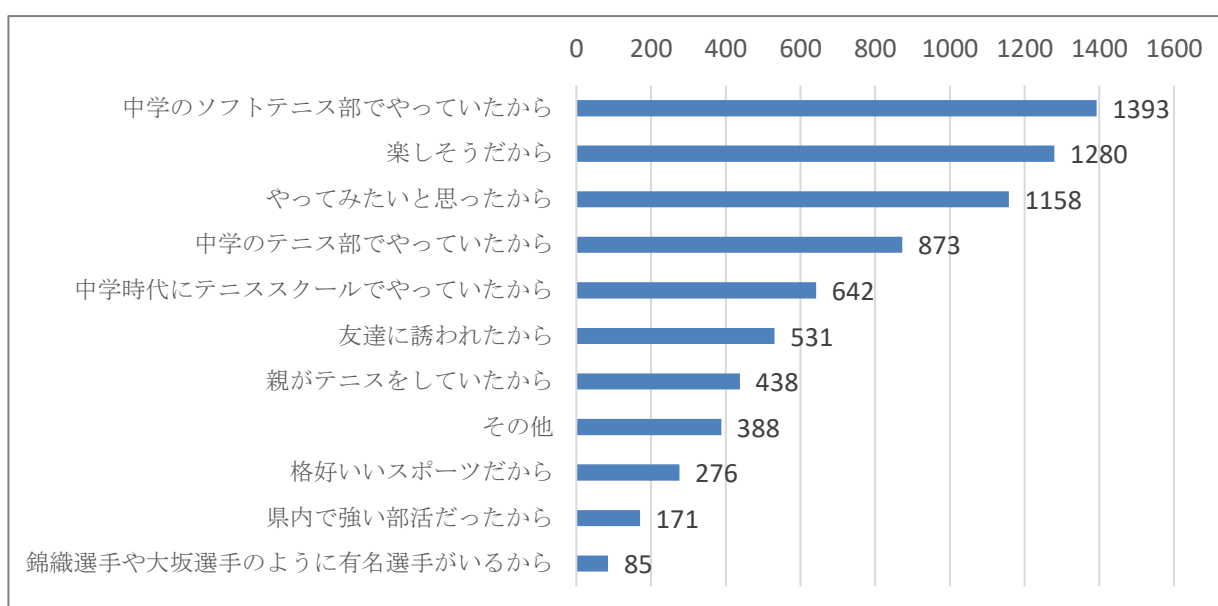
学校のコートサーフェスをたずねたところ、「クレー」が42%と最も多く、次いで「砂入り人工芝」が24%、「ハード」が13%、「その他」が12%となっている。

図表2-10：学校のコートサーフェス (n=4, 180)



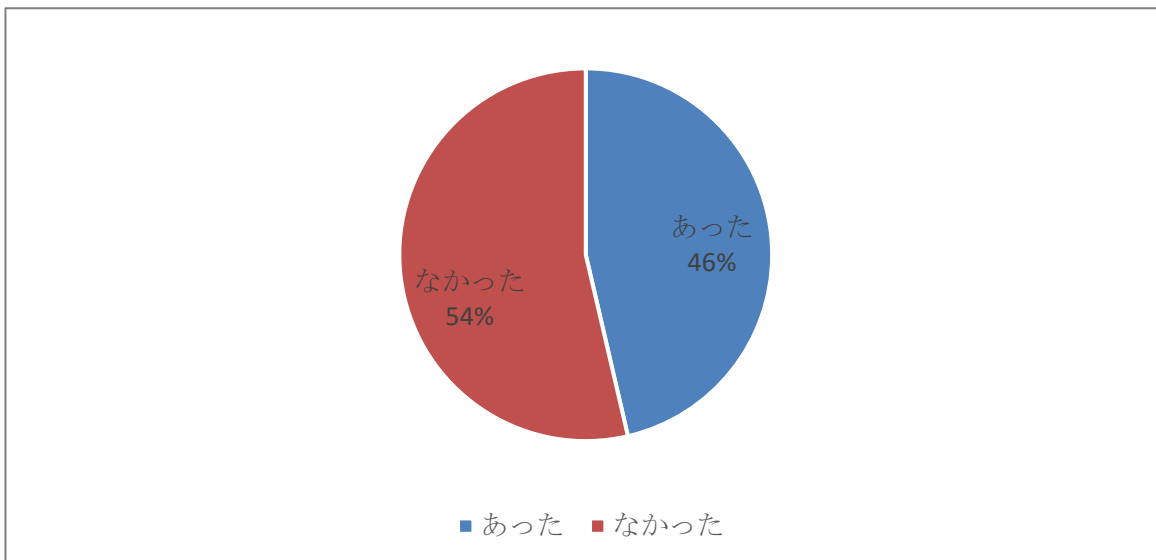
高校でテニス部を選んだ理由をたずねたところ、「中学のソフトテニス部でやっていたから」が最も多く、次いで「楽しそうだから」、「やってみたいと思ったから」、「中学のテニス部でやっていたから」の順となっている。

図表2-11：高校でテニス部を選んだ理由 (n=4, 180) ※複数回答可



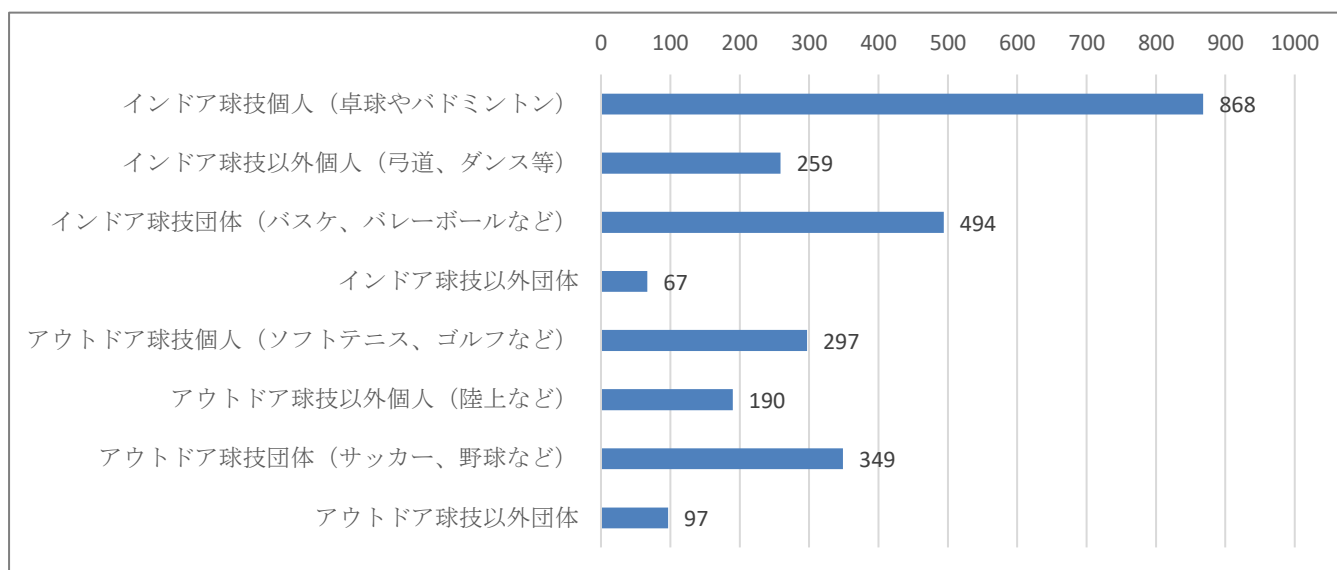
テニス部を選ぶときに迷ったスポーツがあるかをたずねたところ、約半数近くの46%が「あった」と回答している。

図表2-12：テニス部を選ぶときに迷ったスポーツ (n=4, 180)



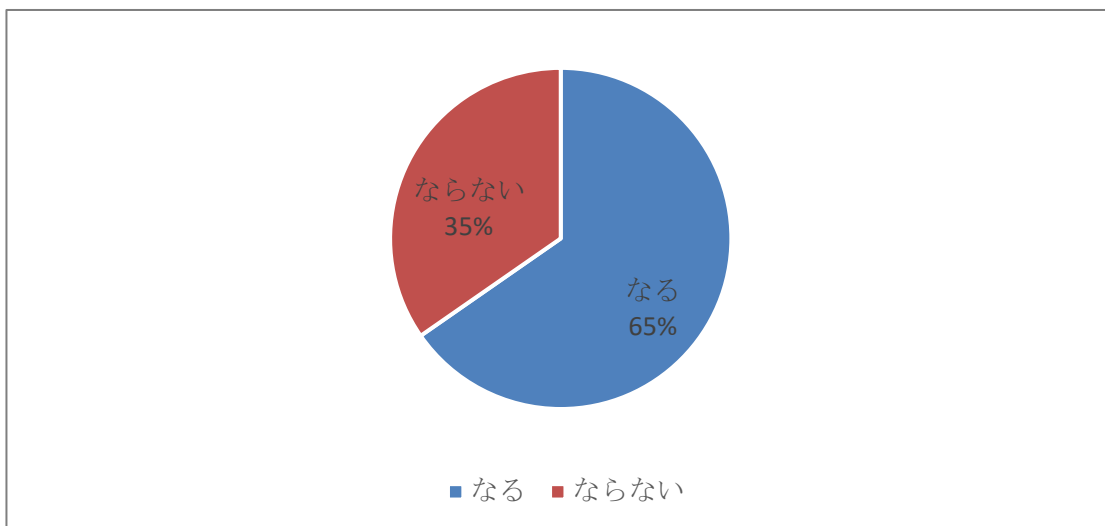
テニス部を選ぶときに迷ったスポーツがあると回答した方に、どちらのスポーツかたずねたところ、「インドア球技個人（卓球やバドミントン）」が最も多く、次いで「インドア球技団体（バスケ、バレーボールなど）」、「アウトドア球技団体（サッカー、野球など）」、「アウトドア球技個人（ソフトテニス、ゴルフなど）」の順となっている。

図表2-13：テニス部を選ぶときに迷ったスポーツ (n=1, 938) ※複数回答可

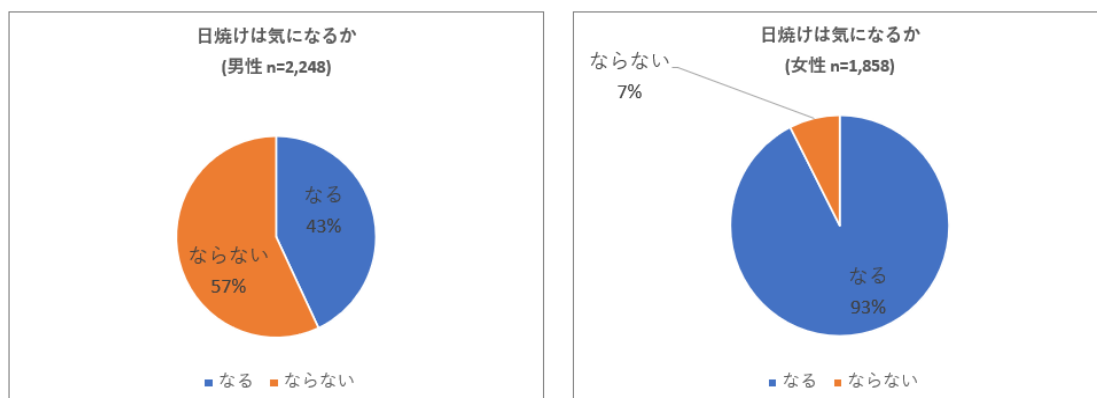


日焼けは気になるかたずねたところ、65%が「日焼けは気になる」と回答している。また性別でみると、男性は「日焼けは気にならない」が57%と多い一方、女性は「日焼けは気になる」が9割以上となっている。

図表2-14：日焼けは気になるか (n=4, 180)

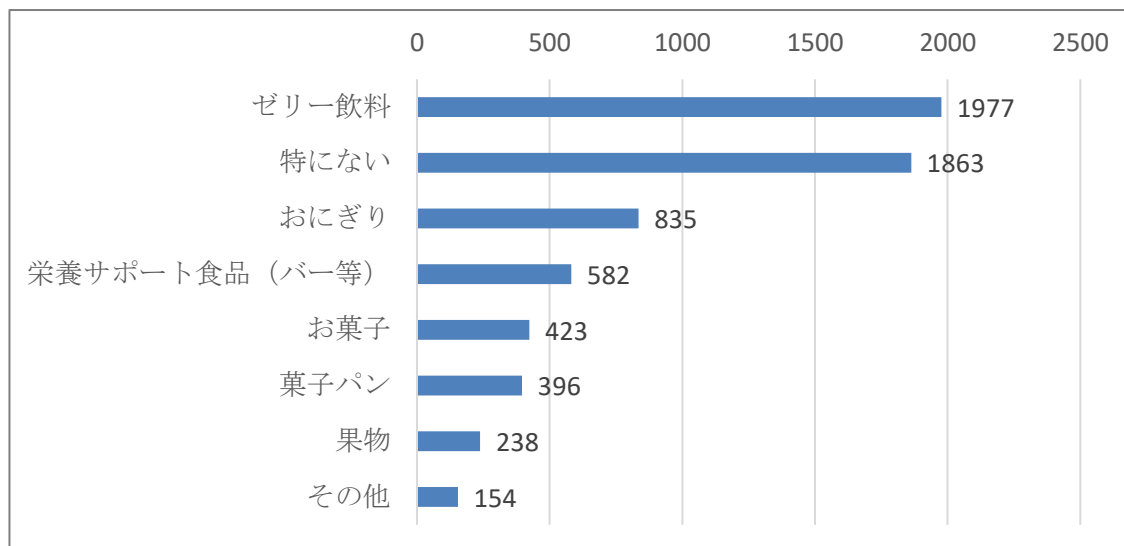


図表2-14-2：日焼けは気になるか 男性(n=2, 248)・女性(n=1, 858)



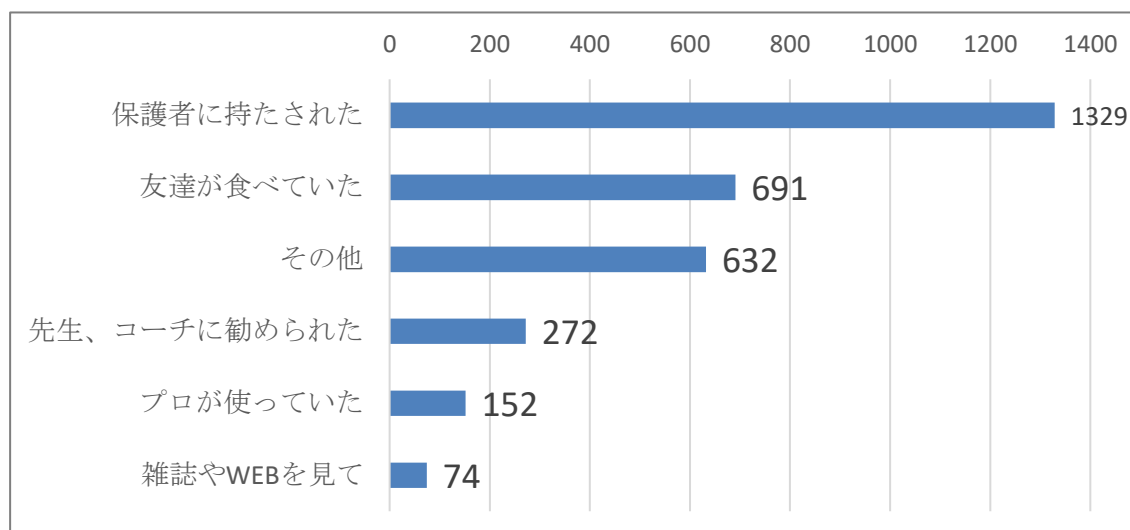
試合中に水分補給以外でとるものをたずねたところ、「ゼリー飲料」が最も多く、次いで「特にない」、「おにぎり」、「栄養サポート食品（バー等）」の順となっている。

図表2-15：試合中に水分補給以外でとるもの（n=4,180）※複数回答可



試合中に水分補給以外でとるようになったきっかけをたずねたところ、「保護者に持たされた」が最も多く、次いで「友達が食べていた」、「その他」、「先生、コーチに勧められた」の順となっている。

図表2-16：試合中に水分補給以外でとるようになったきっかけ（n=2,327）※複数回答可



### 3. 小学校におけるテニピンの体育授業導入状況調査

#### 調査実施概要

調査目的	テニピンが小学校の体育授業にどれだけ導入されているか調査を実施し、未導入の理由や地域を探り、今後の導入促進に向けた施策案やターゲットを探る。 ※テニピンとは： <a href="https://fukyu.jta-tennis.or.jp/teniping/about.html">https://fukyu.jta-tennis.or.jp/teniping/about.html</a>
調査対象	全国の小学校
調査方法	全国小学校18,680校に対してFAXで調査票配信、FAX・WEBアンケートによる回答 小学校教員のための教育情報メディア「みんなの教育技術」の会員に対してメールで調査票を配信、WEBアンケートによる回答
回答状況	1,592名回答
調査時期	2024年2月～3月
調査主体	公益財団法人 日本テニス協会
調査実施	株式会社インターナショナルスポーツマーケティング

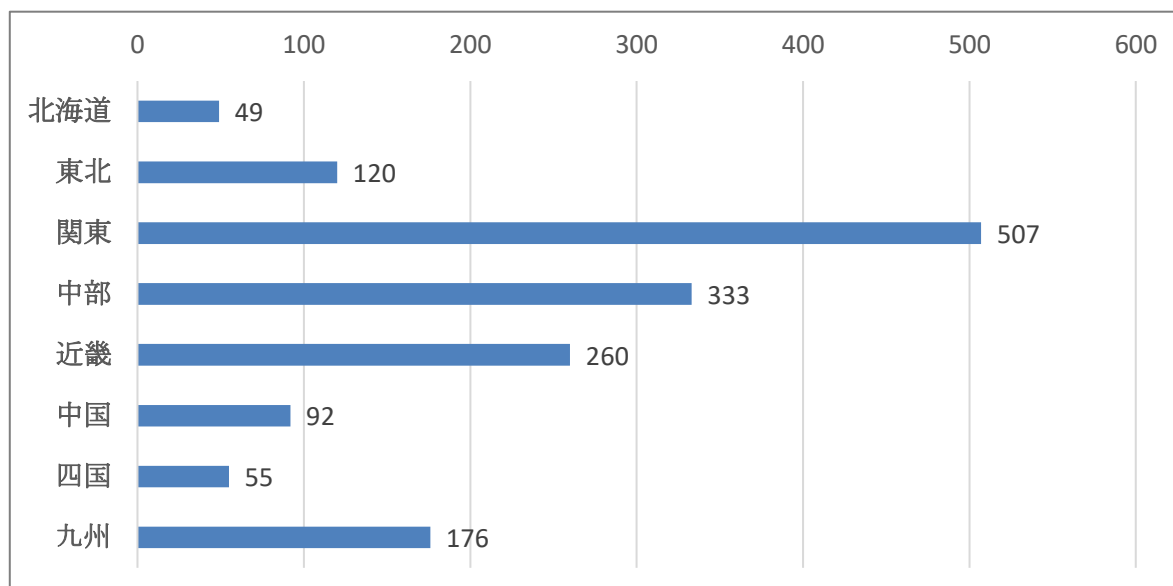
#### 調査結果概要

##### 小学校におけるテニピンの体育授業導入状況

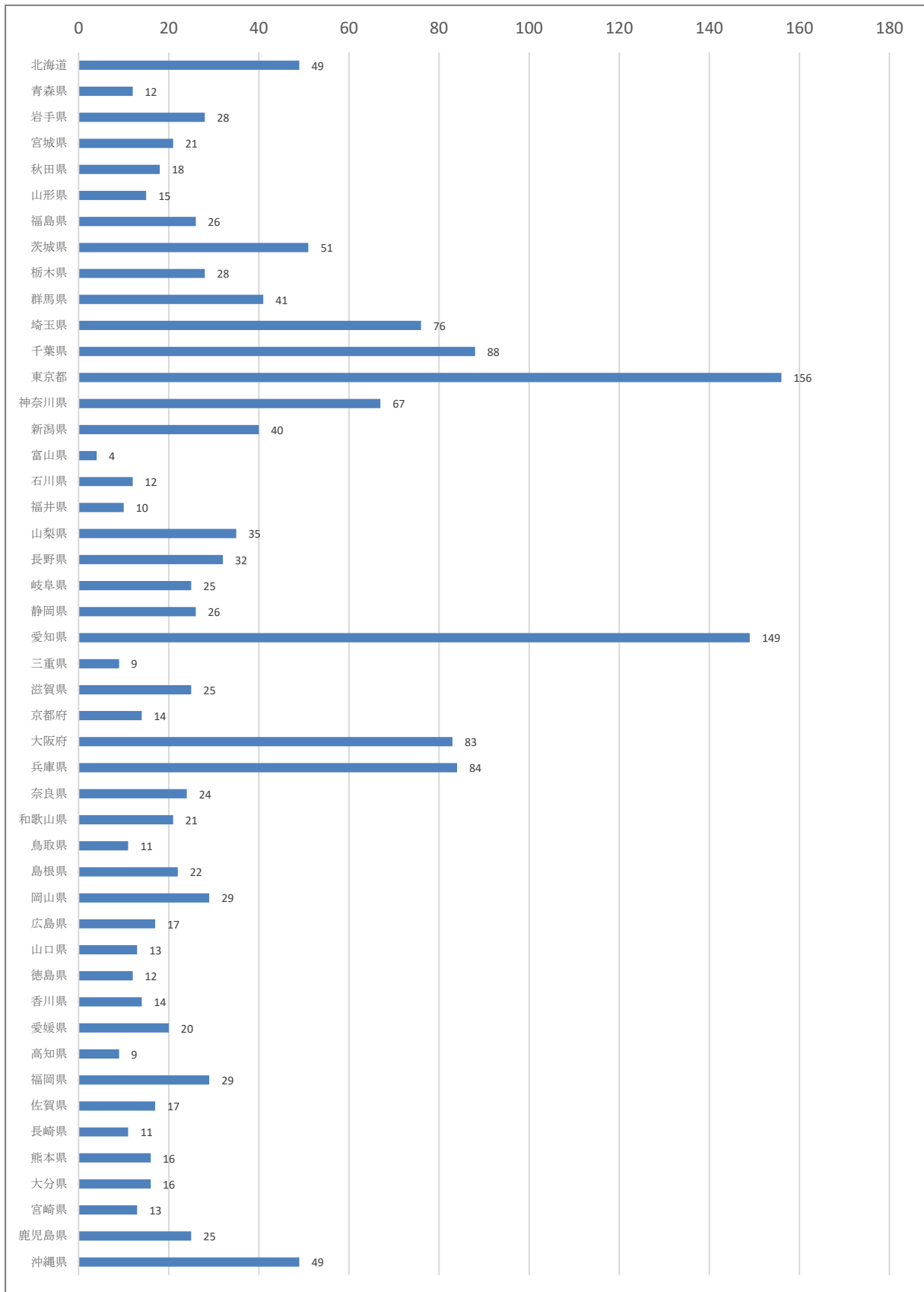
日本テニス協会では、2023年度、全国の小学校を対象に、小学校におけるテニピンの体育授業導入状況調査を実施した。全国小学校18,680校に対してFAXで調査票を配信、FAX・WEBアンケートによる回答方法、また小学校教員のための教育情報メディア「みんなの教育技術」の会員に対してメールで調査票を配信、WEBアンケートによる回答方法で、1,592名から回答を得た。

下記では、回答のあった1,592名の属性(地域・都道府県・役職・担当学年・性別)をまとめている。

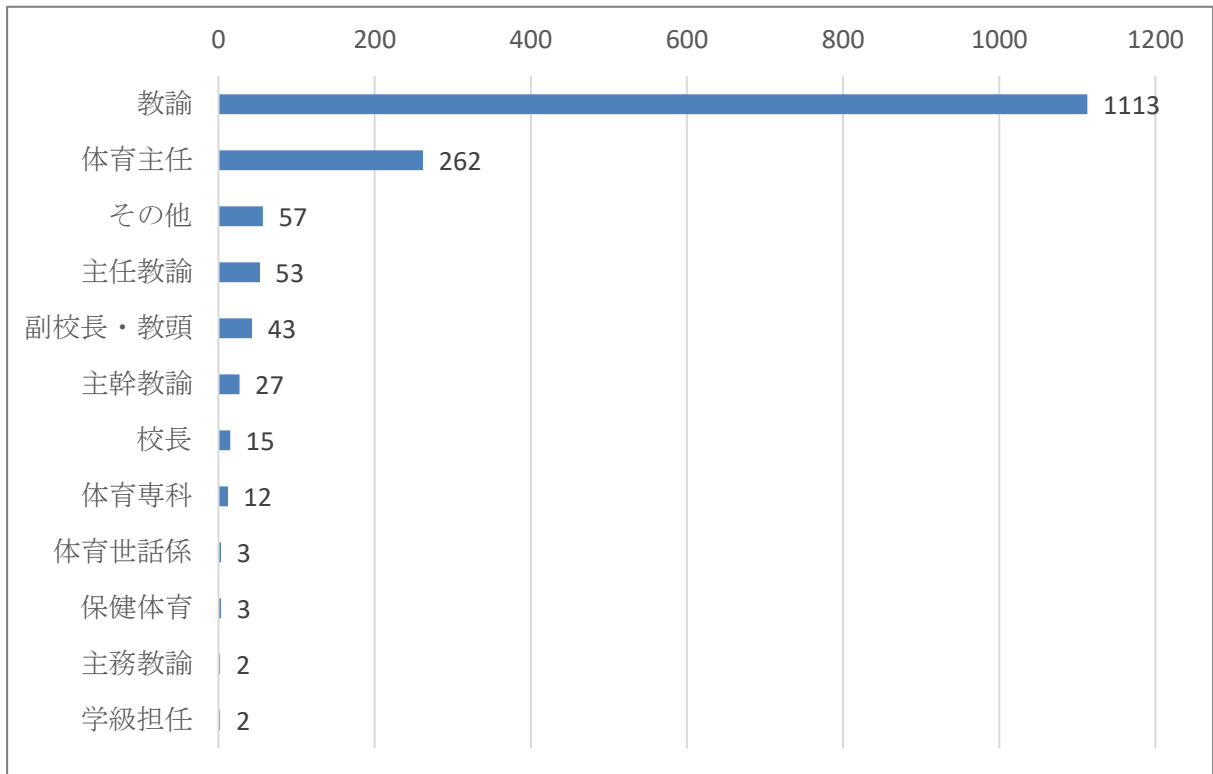
図表3-1：回答者の属性(地域)(n=1,592)



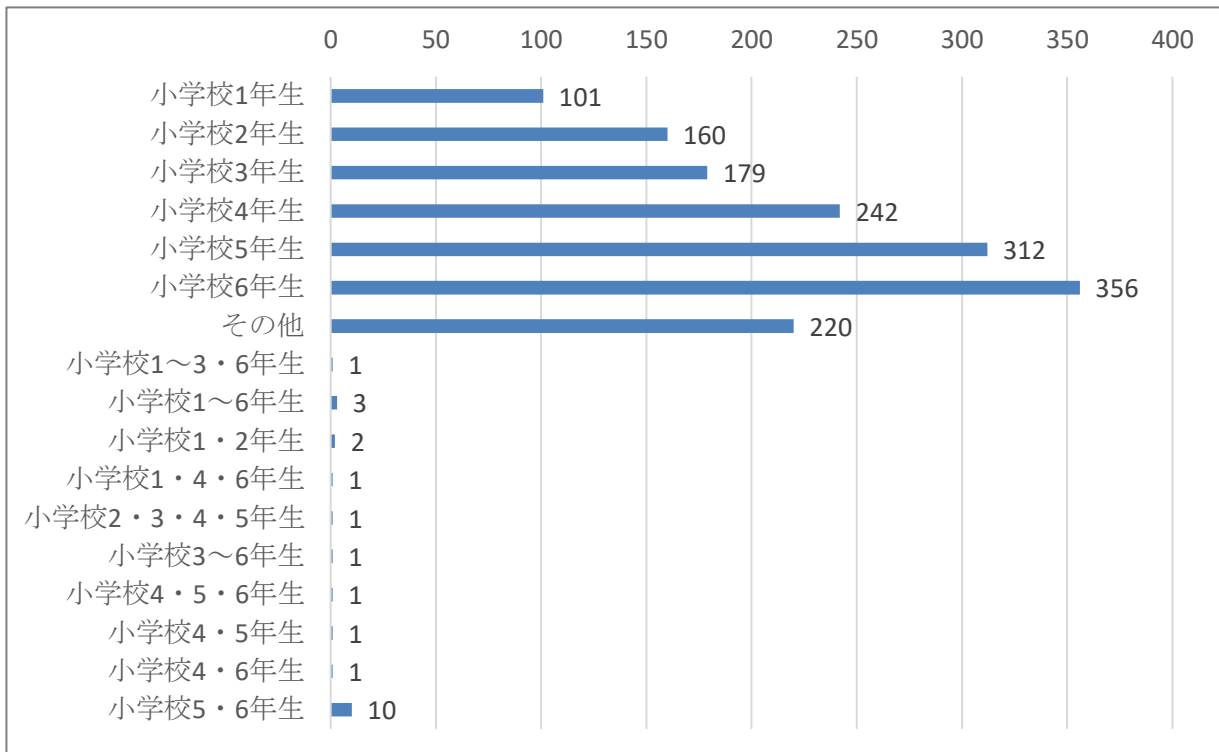
図表3-2：回答者の属性(都道府県) (n=1,592)



図表3-3：回答者の属性(役職)(n=1,592)

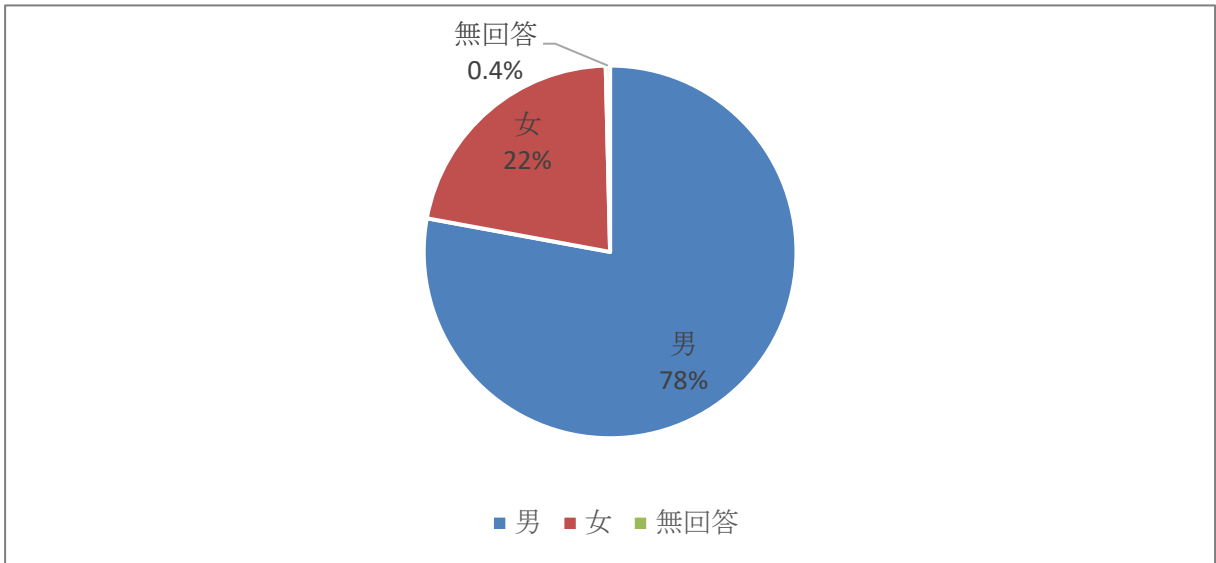


図表3-4：回答者の属性(担当学年)(n=1,592)



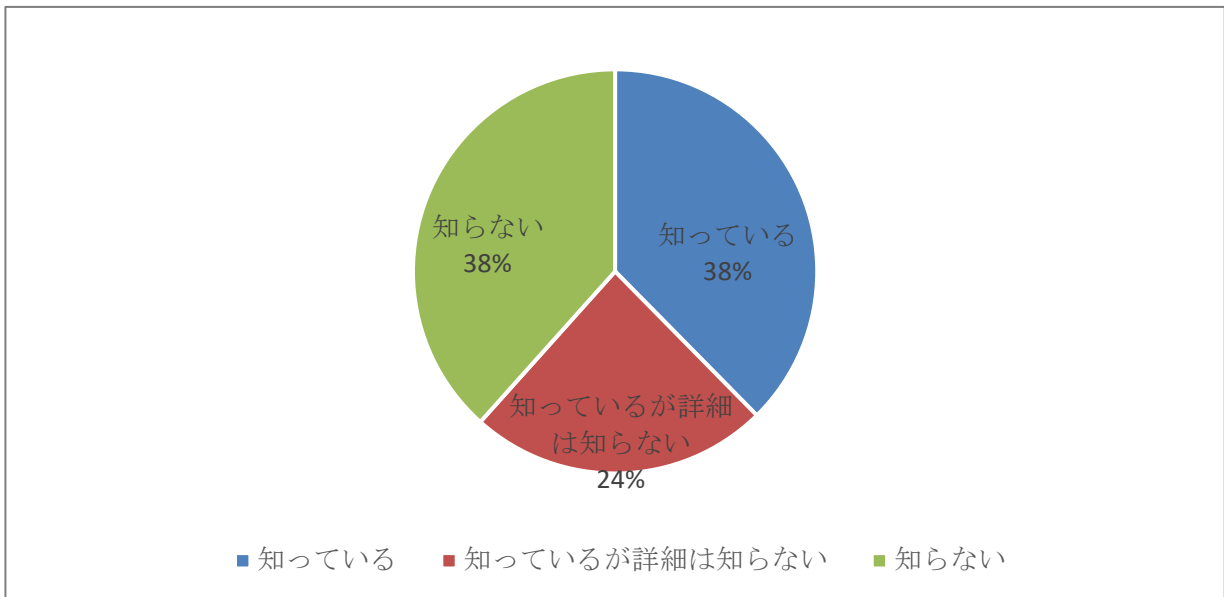


図表3-5：回答者の属性(性別) (n=1, 592)



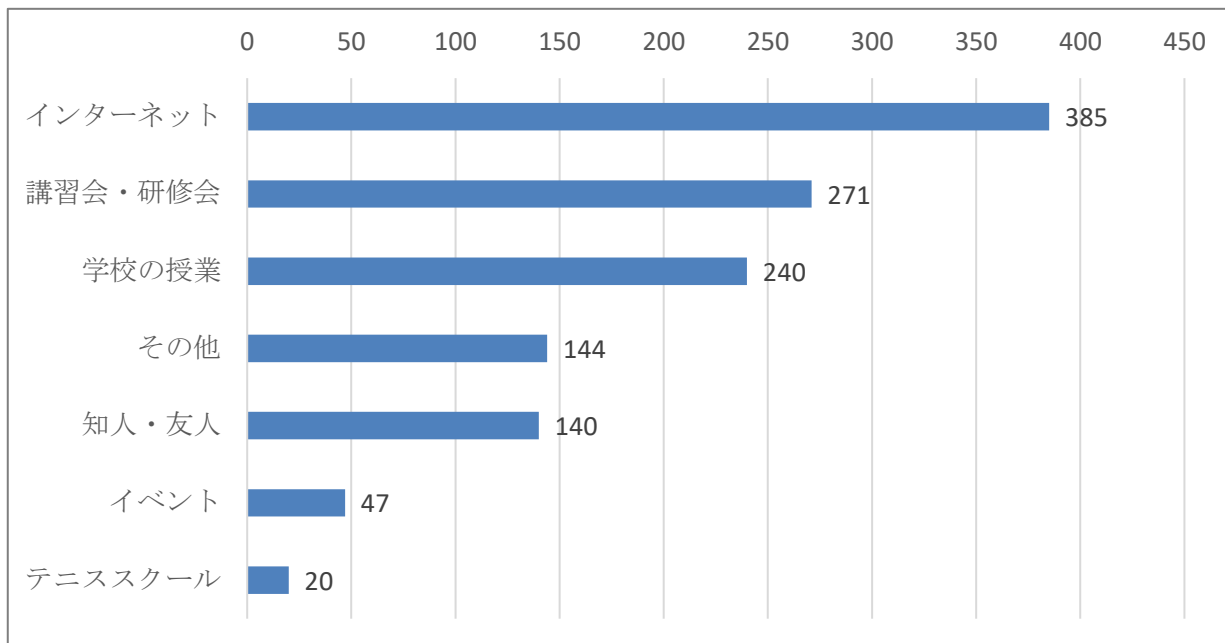
テニピンを知っているかたずねたところ、「知っている」が38%、「知らない」が38%、「知っているが詳細は知らない」が24%となっている。

図表3-6：テニピンを知っているか(n=1, 592)



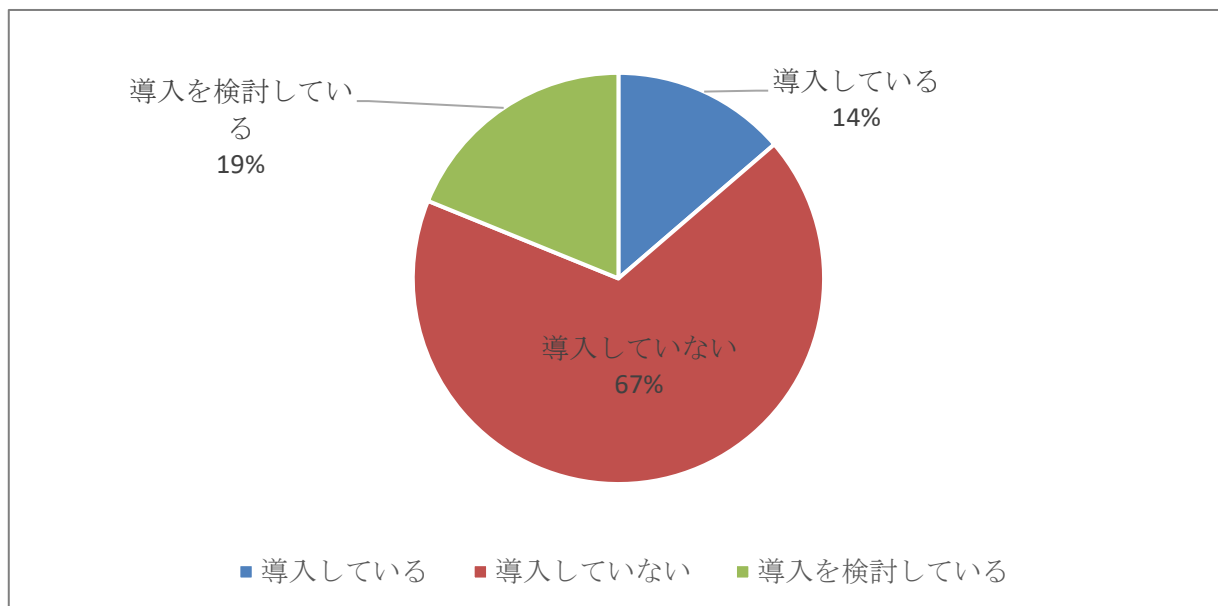
テニピンを知ったきっかけをたずねたところ、「インターネット」が最も多く、次いで「講習会・研修会」、「学校の授業」、「その他」の順となっている。

図表3-7：テニピンを知ったきっかけ(n=596) ※複数回答可



学校の授業にテニピンを導入しているかたずねたところ、「導入していない」が67%と最も多く、次いで「導入を検討している」が19%、「導入している」が14%となっている。

図表3-8：学校の授業にテニピンを導入しているか(n=1,592)



都道府県別にテニピンの導入率を見てみると、「島根県」が41%と最も高く、次いで「石川県」が33%、「福井県」が30%となっている。導入率が10%を切る都道府県が19あることから、導入に向けた促進施策・取り組みが必要と考える。

図表3-8-1：都道府県別のテニピン導入数・導入率

	全体回答数	テニピン導入数	テニピン導入率
<b>合計</b>	<b>1592</b>	<b>218</b>	<b>14%</b>
北海道	49	2	4%
青森県	12	2	17%
岩手県	28	7	25%
宮城県	21	2	10%
秋田県	18	2	11%
山形県	15	1	7%
福島県	26	1	4%
茨城県	51	6	12%
栃木県	28	3	11%
群馬県	41	7	17%
埼玉県	76	8	11%
千葉県	88	12	14%
東京都	156	35	22%
神奈川県	67	6	9%
新潟県	40	6	15%
富山県	4	0	0%
石川県	12	4	33%
福井県	10	3	30%
山梨県	35	5	14%
長野県	32	7	22%
岐阜県	25	4	16%
静岡県	26	0	0%
愛知県	149	34	23%
三重県	9	0	0%
滋賀県	25	4	16%
京都府	14	4	29%
大阪府	83	9	11%
兵庫県	84	11	13%
奈良県	24	4	17%
和歌山県	21	4	19%
鳥取県	11	0	0%
島根県	22	9	41%
岡山県	29	2	7%
広島県	17	0	0%
山口県	13	0	0%
徳島県	12	1	8%
香川県	14	0	0%
愛媛県	20	3	15%
高知県	9	1	11%
福岡県	29	3	10%
佐賀県	17	2	12%
長崎県	11	0	0%
熊本県	16	1	6%
大分県	16	0	0%
宮崎県	13	1	8%
鹿児島県	25	0	0%
沖縄県	49	2	4%

学校の授業にテニピンを導入している理由をたずねたところ、「運動が苦手な子でも参加しやすく誰でも楽しめるため」が最も多く、次いで「ネット型の授業として最適なため」、「研修会や研究授業で体験、実践」、「テニス特有の面白さ、状況判断、作戦を練る力を経験させられるため」、「手軽に簡単にテニス体験ができるから、楽しめるから」、「コロナ禍で身体的接触を避けてできる運動として優れていたから」の順となっている。

図表3-9：学校の授業にテニピンを導入している理由 ※自由記述・複数回答可

導入している理由	回答数
運動が苦手な子でも参加しやすく誰でも楽しめるため	44
ネット型の授業として最適なため	42
研修会や研究授業で体験、実践	30
テニス特有の面白さ、状況判断、作戦を練る力を経験させられるため	28
手軽に簡単にテニス体験ができるから、楽しめるから	18
コロナ禍で身体的接触を避けてできる運動として優れていたから	13
運動量の確保がしやすい	11
学校のカリキュラム・年間指導計画にあるため	10
他校や他学年での導入事例をみて子供が楽しそうだったため	8
知り合いの教諭・地域講師から紹介されたため	5
安全で楽しく運動できるため	5
自身がテニス経験者だから	4
少人数の学級でも取り組みやすい	3
用具の貸し出しを行っていたため	3
ニュースポーツとして取り入れた	3
テニピンを知っている教員がいたため	2
導入しやすい	2
ボール運動なのに個人差が出ず取り組みやすい	2
資質能力を育む上で適している教材	1
子供の意欲が高まる教材だから	1
生徒に好評だったから	1
児童でもラケットを手作りしやすい	1
保護者から勧められた	1
その他	20

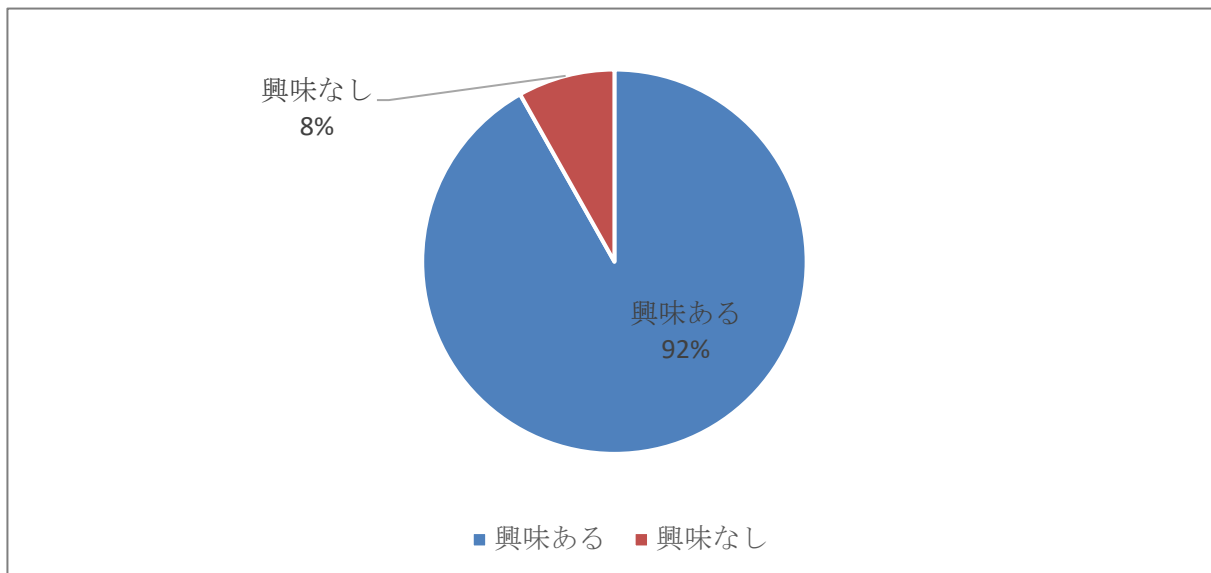
学校の授業にテニピンを導入していない理由をたずねたところ、「知らない・よくわからない・詳しい教員がいないため」が最も多く、次いで「道具・用具がないため」、「カリキュラム・年間指導計画にないため」、「他のネット型ゲームを実施のため(プレルボール、バレーボール、ソフトバレーボール、キャッチボールなど)」、「予算がないため」、「場所がない、コートがないため」の順となっている。

図表3-10：学校の授業にテニピンを導入していない理由 ※自由記述・複数回答可

導入していない理由	回答数
知らない・よくわからない・詳しい教員がいないため	579
道具・用具がないため	548
カリキュラム・年間指導計画にないため	90
他のネット型ゲームを実施のため (プレルボール、バレーボール、ソフトバレーボール、キャッチボールなど)	55
予算がないため	41
場所がない、コートがないため	20
一度に参加できる人数が少ないから。運動量の確保ができないため	17
動画がないため	6
例年通りの教育課程で授業を進めているため	6
機会がなかったため	3
これまで実施したことがないため	3
指導への不安	2
現在の教材で十分指導できるため	2
その他	24

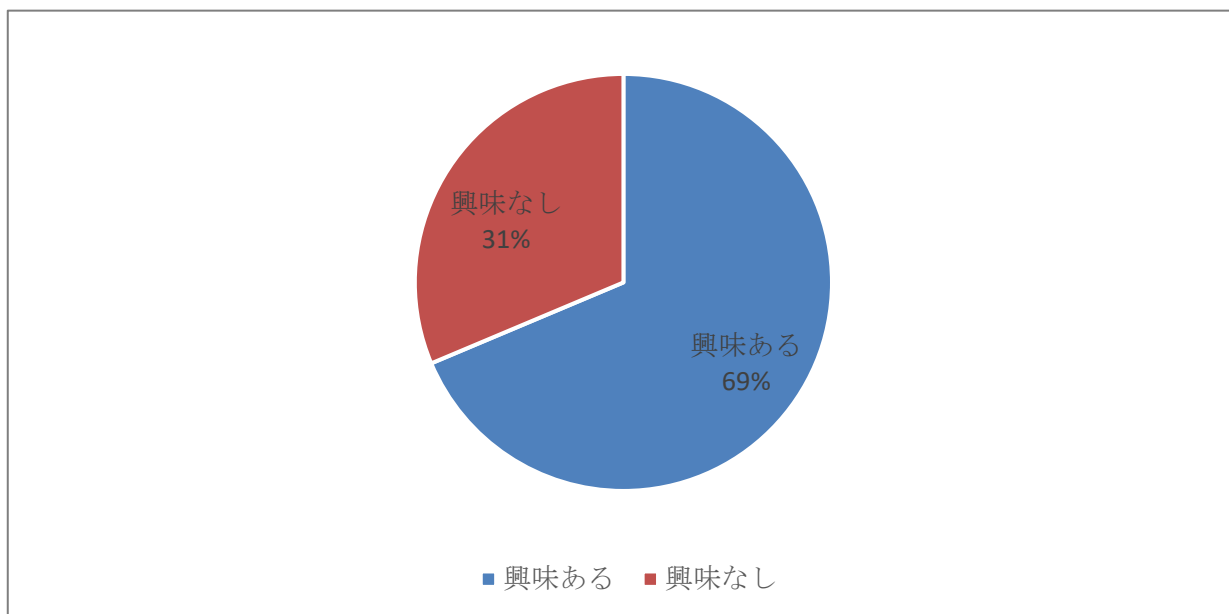
用具（ラケット・ボール）の無償提供キャンペーンへの興味をたずねたところ、「興味ある」と回答した方が9割を超え、強い関心を示した。「道具・用具がない」ため導入していない学校に対しての導入促進施策になる可能性がある。

図表3-11：用具（ラケット・ボール）の無償提供キャンペーンへの興味（n=1,592）



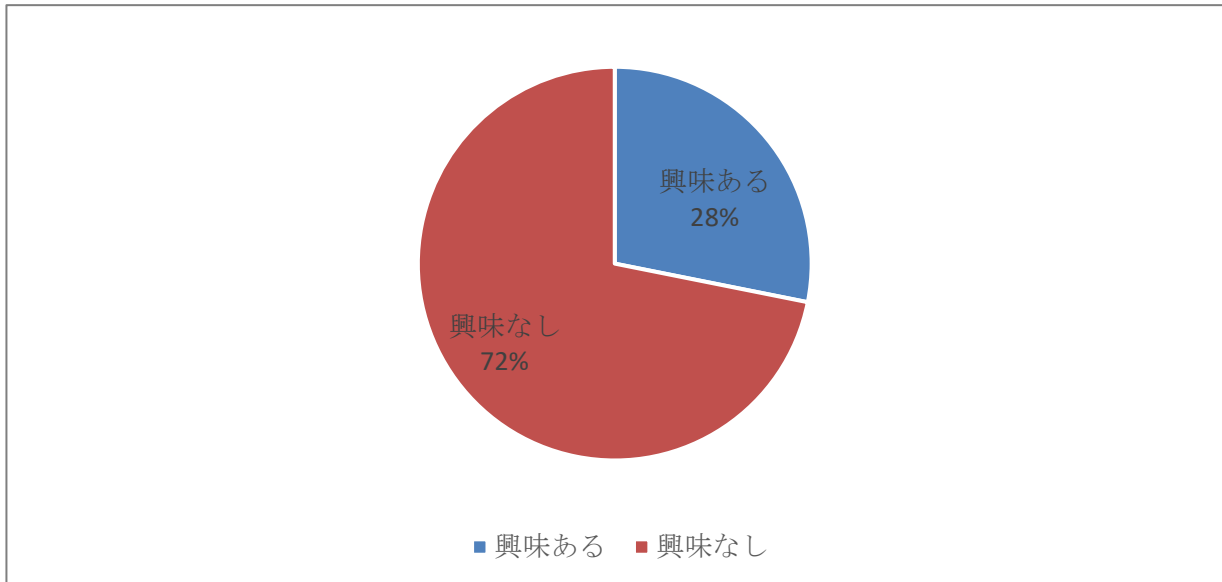
講師（教員研修会、出張授業）の無償派遣への興味をたずねたところ、「興味ある」と回答した方が約7割となり、強い関心を示した。「知らない・よくわからない・詳しい教員がない」ため導入していない学校に対しての導入促進施策になる可能性がある。

図表3-12：講師（教員研修会、出張授業）の無償派遣への興味（n=1,592）



テニピンリーダー認定資格への興味をたずねたところ、「興味ある」と約3割の方が回答。興味関心度の高い先生に、テニピンを推進・普及いただくリーダーになっていただける可能性がある。興味なしの先生にはテニピンやテニピンリーダー認定資格についてメリットを伝えていく必要がある。

図表3-13 : テニピンリーダー認定資格への興味 (n=1,592)



## 4. テニス界における選手・公認審判員・公認指導者数

これまでマクロの視点が多かったテニス人口（登録者数など）について、より現状を把握できるように、昨年度に引き続き、数年における推移やグラフでの表記を心掛けた。ジュニアについては日本テニス協会加盟団体及び協力団体競技団体の協力のもと、中学、高校、大学については、部員数などミクロの視点でのデータを表記するようにした。

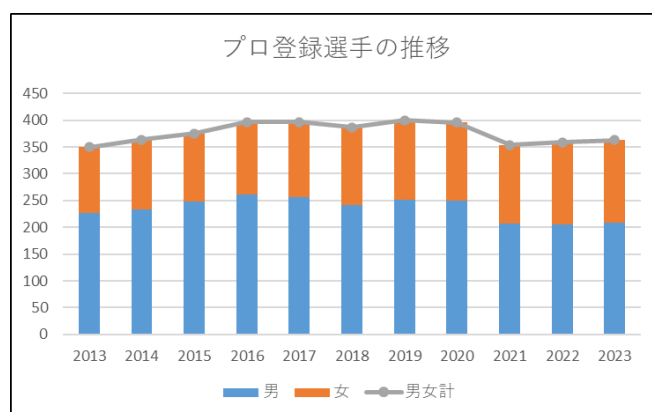
### 4-1 登録選手

#### 4-1-1 プロ登録選手

「プロ登録選手」は過去 10 年の経過において、新型コロナウイルスの影響があったものの、**350 人から 400 人で推移**している。

	男子		女子		合計	
		前年比		前年比		前年比
地域合計	208	2	155	2	363	4
北海道	6	1	1	0	7	1
東北	2	1	0	0	2	1
北信越	2	0	3	0	5	0
関東	119	▲4	95	0	214	▲4
東海	22	3	14	0	36	3
関西	42	▲1	28	2	70	1
中国	3	0	5	1	8	1
四国	2	0	1	0	3	0
九州	9	2	7	0	16	2

注) 合計には海外の男子1人、女子1人が含まれる

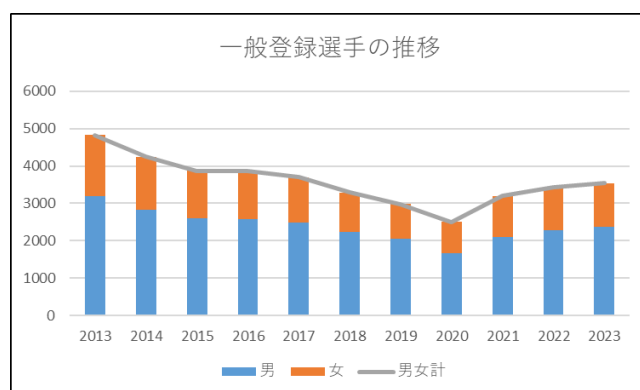


#### 4-1-2 一般登録選手

「一般登録選手」は新型コロナウイルス発生時を底に盛り返してきているが、約 5,000 人いた 2013 年に比べ、現在、3,500 人とおよそ、**30%減少**している。

	男子		女子		合計	
		前年比		前年比		前年比
地域合計	2,375	90	1,168	30	3,543	120
北海道	53	2	12	0	65	2
東北	57	11	25	▲8	82	3
北信越	67	▲14	27	▲1	94	▲15
関東	1,241	▲21	695	32	1,936	11
東海	206	62	91	18	297	80
関西	395	25	173	▲5	568	20
中国	99	8	38	▲8	137	0
四国	34	▲4	6	▲6	40	▲10
九州	220	21	101	8	321	29

注) 男子の合計には、海外の3人が含まれる

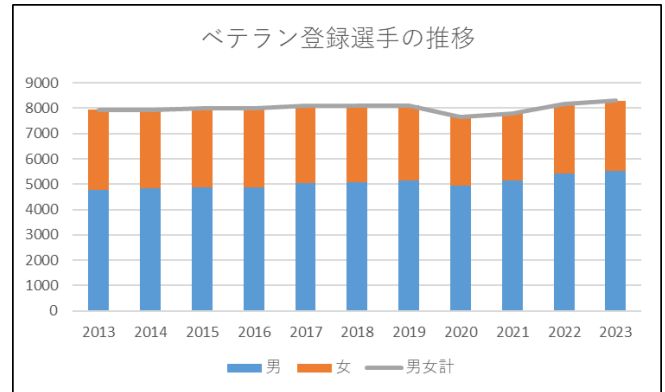




### 4-1-3 ベテラン登録選手

「ベテラン登録選手」は、新型コロナウイルスの影響を少し受けたものの、約 8,300 人で **堅調に推移**している。

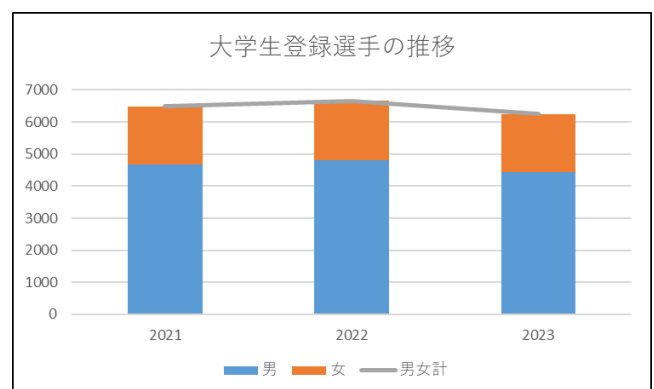
	男子		女子		合計	
	前年比		前年比		前年比	
地域合計	5,528	100	2,770	18	8,298	118
北海道	140	0	120	5	260	5
東北	175	18	76	▲4	251	14
北信越	151	▲8	83	▲4	234	▲12
関東	2,933	28	1,502	13	4,435	41
東海	403	21	209	▲5	612	16
関西	1,000	8	418	▲4	1,418	4
中国	228	13	109	▲1	337	12
四国	114	9	52	6	166	15
九州	384	11	201	12	585	23



### 4-1-4 大学生登録選手

「大学生登録選手」の登録者数は、まだ 2021 年からのデータしかないため、3 年の推移の比較となり、新型コロナウイルスの厳しい中、微減となっている。今回初めて掲載する、「大学同好会」は、100団体、約7,500人となっている（引用元：全日本学生テニス連盟）

	男子		女子		合計	
	前年比		前年比		前年比	
地域合計	4,434	▲379	1,812	▲39	6,246	▲418
北海道	290	11	128	20	418	31
東北	240	▲11	57	0	297	▲11
北信越	297	2	130	2	427	4
関東	1,405	▲178	680	▲10	2,085	▲188
東海	541	▲40	216	2	757	▲38
関西	816	▲112	359	▲26	1,175	▲138
中国	404	▲32	103	▲21	507	▲53
四国						
九州	441	▲19	139	▲6	580	▲25



#### ■全日本学生庭球同好会連盟 加盟数

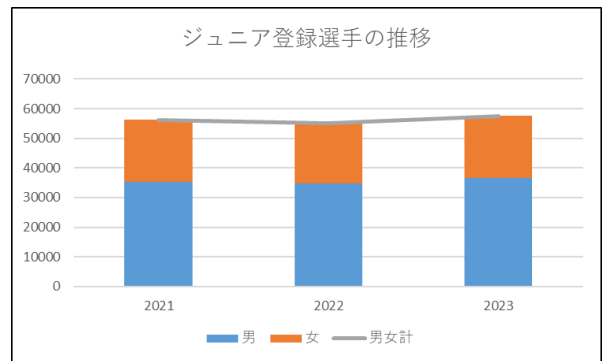
	2023年度							
	サークル数		男子		女子		人数合計	
	前年比		前年比		前年比		前年比	
地域合計	100	0	4,244	0	3,210	0	7,454	0
東北	3	-	70	-	16	-	86	-
関東	55	-	2,049	-	1,866	-	3,915	-
東海	9	-	254	-	176	-	430	-
関西	24	-	1,354	-	937	-	2,291	-
九州	9	-	517	-	215	-	732	-

## 4-1-5 ジュニア登録選手

ジュニア選手の登録者数は、残念ながら全地域で減少傾向となっている。テニス人口拡大のためには、ジュニアにおける普及活動が必須となり、特にテニス体験の機会を増やす活動と仕組みが必要な状況である。

※JPIN のデータを元に表記しているが、関東のみ、関東テニス協会ジュニア委員会の協力を得てデータを修正している。

	男子		女子		合計	
	前年比		前年比		前年比	
地域合計	36,625	▲1,866	20,842	▲586	57,467	▲2,452
北海道	1,698	▲6	1,175	▲34	2,873	▲28
東北	2,588	▲862	1,767	▲518	4,355	▲1,380
北信越	3,099	▲9	1,962	▲15	5,061	▲24
関東	8,123	▲297	3,259	▲414	11,382	▲117
東海	6,052	▲267	3,670	▲80	9,722	▲347
関西	7,221	▲959	4,157	▲481	11,378	▲1,440
中国	1,970	▲255	1,083	▲179	3,053	▲434
四国	1,992	▲143	1,391	▲88	3,383	▲231
九州	3,882	▲1,004	2,378	▲665	6,260	▲1,669

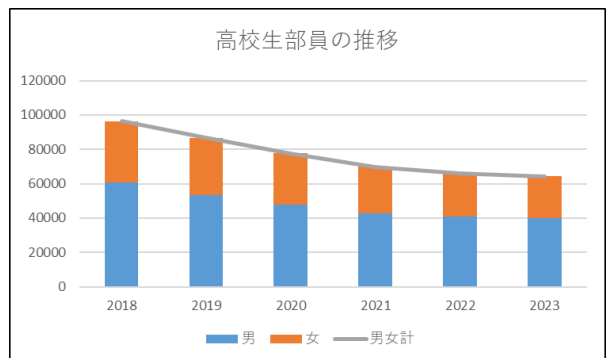


## 4-1-6 高校生登録選手

高校生の登録選手は、男女とも減少傾向が止まっていない。学校の部活減少の影響もあり、5年前に比べ約10万人から約7万人（30%減）と落ち込んでいる。（引用元：全国高体連テニス専門部。登録が始まった6年前からのデータを表記している）

### ■生徒数

	男子		女子		合計	
	前年比		前年比		前年比	
地域合計	39,834	▲956	24,526	▲934	64,360	▲1,890
北海道	1,232	▲34	914	▲56	2,146	▲90
東北	1,566	▲89	1,053	▲68	2,619	▲157
北信越	2,281	▲63	1,375	▲76	3,656	▲139
関東	13,870	▲381	8,710	▲223	22,580	▲604
東海	6,488	▲564	3,741	▲524	10,229	▲1,088
関西	7,079	▲44	4,403	▲6	11,482	▲50
中国	2,152	▲23	1,282	▲17	3,434	▲40
四国	1,124	▲117	623	▲142	1,747	▲259
九州	4,042	▲271	2,425	▲166	6,467	▲437



### ■学校数

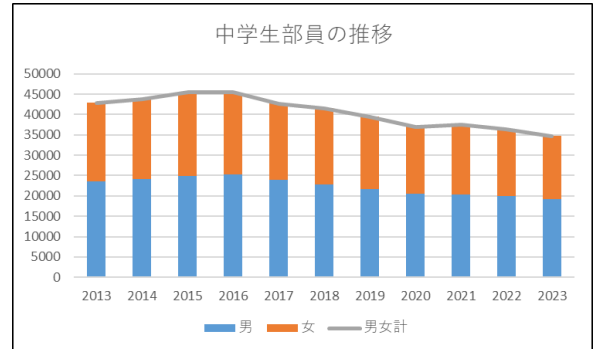
	男子		女子		合計	
	前年比		前年比		前年比	
地域合計	2,501	▲20	2,279	▲26	2,841	▲46
北海道	107	▲3	98	▲1	117	▲4
東北	140	▲7	126	▲4	154	▲11
北信越	160	▲1	137	▲3	173	▲2
関東	864	▲13	829	▲3	984	▲16
東海	312	▲12	279	▲18	376	▲30
関西	381	▲5	359	▲8	431	▲3
中国	147	▲3	125	▲3	165	▲0
四国	94	▲3	78	▲9	107	▲12
九州	296	▲19	248	▲7	334	▲26

## 4-1-7 中学生登録選手

中学生の登録選手も減少傾向ではあるが、ここ3年は下げどまり。政府が進める「部活動の地域移行」に動向については注視していく必要があると考える。（引用元：全国中学校テニス連盟）

### ■生徒数

	男子		女子		合計	
		前年比		前年比		前年比
地域合計	19,112	▲849	15,556	▲717	34,668	▲1,566
北海道	80	3	82	▲1	162	2
東北	281	33	189	7	470	40
北信越	462	▲23	258	▲59	720	▲82
関東	9,545	▲224	8,265	▲364	17,810	▲588
東海	1,416	▲46	1,089	129	2,505	83
関西	3,922	▲113	3,097	▲38	7,019	▲151
中国	692	▲91	479	▲83	1,171	▲174
四国	398	▲68	323	▲71	721	▲139
九州	2,316	▲320	1,774	▲237	4,090	▲557



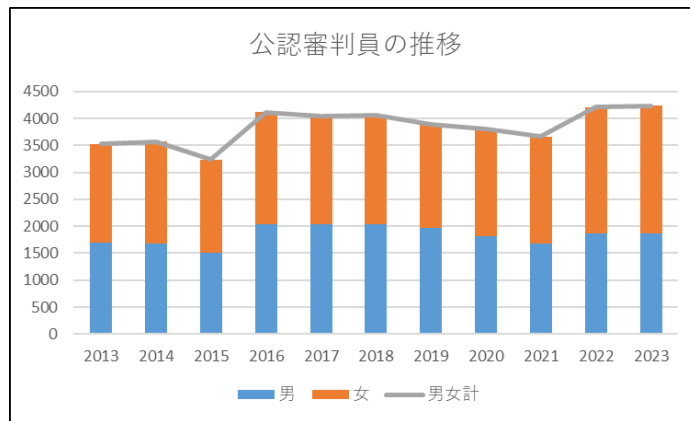
### ■学校数

	男子		女子		合計	
		前年比		前年比		前年比
地域合計	1,168	▲24	1,084	▲16	2,252	▲40
北海道	4	1	6	▲1	10	0
東北	31	6	22	0	53	6
北信越	23	▲7	15	▲11	38	▲18
関東	494	▲1	508	▲2	1,002	▲3
東海	60	3	62	11	122	14
関西	199	▲1	193	8	392	7
中国	67	▲18	54	▲16	121	▲34
四国	30	▲2	31	1	61	▲1
九州	260	▲5	193	▲6	453	▲11

## 4-2 公認審判員

公認審判員は全部門において増加の傾向。公認審判員の内、レフェリーは男子 206 人、女子 284 人で男女計 490 人。アンパイアは男子 1,627 人、女子 2,042 人で男女計 3,669 人。チーフアンパイアは男子 26 人、女子 49 人で男女計 75 人。

	レフェリー						アンパイア						チーフアンパイア					
	男子		女子		合計		男子		女子		合計		男子		女子		合計	
		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比
地域合計	206	12	284	16	490	28	1,627	▲18	2,042	12	3,669	▲6	26	5	49	▲2	75	3
北海道	9	0	13	0	22	0	76	9	149	3	225	12	2	0	2	▲1	4	▲1
東北	13	▲1	4	2	17	1	98	▲16	144	▲10	242	▲26	2	1	0	0	2	1
北信越	18	3	13	▲1	31	2	156	0	151	5	307	5	3	2	5	2	8	4
関東	71	7	124	5	195	12	592	47	595	6	1,187	53	5	1	16	▲4	21	▲3
東海	20	2	36	3	56	5	155	7	198	▲9	353	▲2	5	0	7	▲1	12	▲1
関西	25	2	41	3	66	5	210	▲55	280	35	490	▲20	3	1	11	1	14	2
中国	24	0	16	0	40	0	115	14	151	0	266	14	4	0	4	0	8	0
四国	11	0	13	2	24	2	53	2	71	2	124	4	0	0	0	0	0	0
九州	15	▲1	24	2	39	1	172	▲26	303	▲20	475	▲46	2	0	4	1	6	1



### 4-3 公認指導員

公認指導員の資格は大きく分けて2つのカテゴリーがあり、公益財団法人日本スポーツ協会が認定する公認スポーツ指導者資格と、日本テニス協会が認定する資格とに分かれている。

#### 4-3-1 コーチ1～コーチ4、テニス教師、テニス上級教師

公益財団法人日本スポーツ協会が認定する公認スポーツ指導者資格の養成目的。

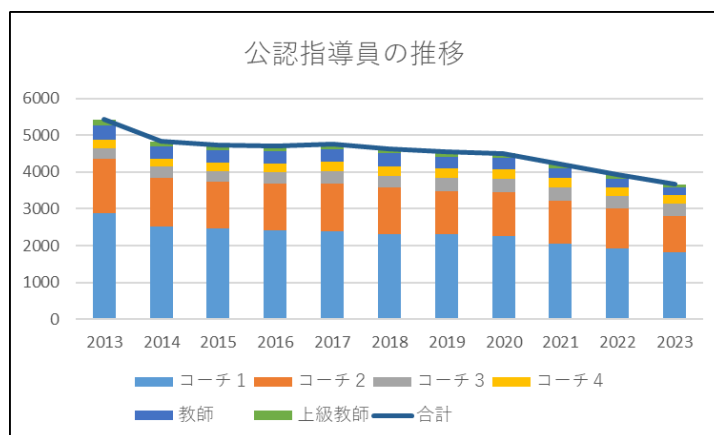
コーチ1	都道府県でテニスの普及発展を図るため、初心者、初級レベルの一般成人やジュニアを対象に基礎的実技指導にあたる指導者を養成する。
コーチ2	地域や都道府県で地域スポーツクラブ・学校運動部活動・テニス教室等において、年齢、競技レベルに応じたテニス指導にあたる中心的な役割を担うとともに、企画・立案・実行能力のある指導者を養成する。
コーチ3	競技者育成プログラムに基づき、都道府県、地域レベルでのテニス競技者の発掘・育成・強化にあたる高い指導力・高い実技能力を持った指導者を養成する。
コーチ4	トップアスリートの育成・強化にあたりとともに、都道府県・地域トレーニングセンターのリーダーとなる人物の育成にあたる指導者を養成する。
テニス教師	民間テニスクラブにおいて、初心者、初級、中級レベルの愛好家やジュニアを対象に、基本的実技指導にあたる指導者を養成する。またサービス業として顧客に対する対応ができ、社会的適応能力のある人材を育成する。
テニス上級教師	民間テニスクラブにおいて、あらゆる対象に対する指導にあたりとともに、スクールの運営・管理、カリキュラム編成、イベント企画に参画できる指導者を養成する。
S級エリートコーチ	S級エリートコーチ制度は、テニスのトレーニング、コーチング、マネジメントの各分野において最新の科学的理論と実践知識に基づき、世界基準の指導力を有する指導者を育成する。

2023年10月1日現在のS級エリートコーチを除く公認指導者は合計 3,667人。軒並み、

減少傾向になっている。絶対数としては特に「コーチ1」「コーチ2」の落ち込みが激しい。割合としては、教師が11%、上級教師が19%といずれも高い減少率を示した。

日本スポーツ協会資格 (2023年度)														
	コーチ1		コーチ2		コーチ3		コーチ4		教師		上級教師		合計	
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比			
地域合計	1,813	▲119	988	▲97	335	▲10	246	18	203	▲26	82	▲19	3,667	▲253
北海道	47	▲19	24	▲14	6	0	2	0	3	0	0	0	82	▲33
東北	153	▲17	53	▲21	23	1	12	▲1	7	0	7	▲3	255	▲41
北信越	199	▲6	75	▲8	17	▲6	19	1	18	▲2	8	▲1	336	▲22
関東	435	▲47	283	▲20	120	▲3	97	8	79	▲17	37	▲10	1,051	▲89
東海	208	▲13	57	▲13	38	1	22	2	16	1	8	▲1	349	▲23
関西	337	▲12	210	▲16	57	0	45	5	51	▲4	10	▲3	710	▲30
中国	178	▲23	140	▲1	29	0	26	2	11	▲1	3	0	387	▲23
四国	69	▲3	48	0	18	1	8	2	4	0	1	▲1	148	▲1
九州	187	21	98	▲4	27	▲4	15	▲1	14	▲3	8	0	349	9
国外	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

注) S級エリートコーチの合計には、海外の1人が含まれる

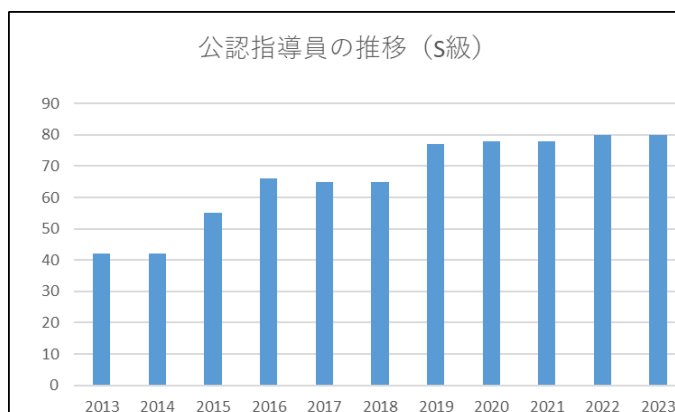


#### 4-3-2 S級コーチ

S級エリートコーチは2022年4月1日現在で合計80人が認定されている。養成講習会が開催されていないため、前年に比べて変動はない。

注) S級エリートコーチの合計には、海外の1人が含まれる

	JTA S級エリート	
	前年比	前年比
地域合計	80	0
北海道	0	0
東北	1	0
北信越	2	0
関東	47	0
東海	4	0
関西	12	0
中国	5	0
四国	4	0
九州	4	0
国外	1	0





---

令和5年度 テニス環境等実態調査 報告書

令和6年（2024年）3月

発行者 公益財団法人日本テニス協会

〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町 4-2 Japan Sport Olympic Square 7階

電話：03-6812-9271

E-mail：[mail@jta-tennis.or.jp](mailto:mail@jta-tennis.or.jp)

URL：<http://www.jta-tennis.or.jp/>

編集 株式会社インターナショナルスポーツマーケティング

---